

平成 1 6 年度

羽村市立学校
2 学期制実施報告書

平成 1 7 年 3 月

羽村市教育委員会

あ い さ つ

羽村市教育委員会 教育長 角 野 征 大

子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、子どもたちの学力低下や学業や職業に対して無気力な子どもたちの増加等が指摘されています。

こうした状況を踏まえ、中央教育審議会総会において、文部科学大臣から「基本的な知識や技能をしっかりと身に付けさせ、それを活用しながら自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむという現行の学習指導要領のねらいが十分達成されているか。」「必要な手立てが十分講じられているか。」等の具体的な課題が示されました。

各学校においては、現在行われている教育活動を再度見直し、学習指導要領に示されたねらいを達成する具体的な手立てを再構築することが求められています。

羽村市では、先進校の実践をもとに、平成16年度より全校一斉に2学期制を導入いたしました。これは、各学校が学期や長期休業日の見直しをきっかけとして、新しい時代に対応した学校の在り方を創造するための意欲と活力がもつことを目的にしたものであり、学校に求められている「学習指導要領に示されたねらいに迫る具体的な手立て」の再構築に直結する制度改革であると確信しております。

そして、ここに「羽村市2学期制元年」の報告書が完成いたしました。報告内容は学校により様々ですが、2学期制のよさを生かした取組やその成果として下記のようなことが報告されています。

- ◎学期や長期休業日の在り方を見直し、授業時数を十分に確保できた。
- ◎学期のはじめや長期休業日の前後に教育面談を実施し、一人一人に自分にあった具体的な目標がもてるようになった。
- ◎長期休業日前に達成できなかったことや学習を通して興味をもったこと等が長期休業日中の学習のめあてとなり、学校や家庭、地域が協力してそのための学習環境を整えることにより、サマースクール等の活動が展開された。

最後に、本報告書が各学校における教育活動の充実、改善につながることを期するとともに、各学校において2学期制のよさを生かした教育課程の実施、編成を進めてくださった学校長はじめ、諸先生方に対して、敬意を表します。

目 次

あいさつ

羽村市教育委員会教育長 角野 征大

目 次

各学校からの報告 2～41

<小学校>

羽村東小学校 2～5

羽村西小学校 6～9

富士見小学校 10～13

栄 小学校 14～17

松 林小学校 18～21

小作台小学校 22～25

武蔵野小学校 26～29

<中学校>

羽村第一中学校 30～33

羽村第二中学校 34～37

羽村第三中学校 38～41

羽村市立羽村東小学校

—羽村東小学校の教育の根幹・学校教育目標—

羽村東小学校・学校教育目標

児童が生涯にわたり、自他の生命を大切に、互いの考えや個性を尊重し合い、人間性豊かな心と健康な身体をもち、主体的に学び、考え、表現する能力を育成することで、「生きて働く力」をはぐくむことをめざして、

「よく考え、進んで実行する子」とする。

1、羽村東小の現状分析と問題点

(1) 学校教育目標の具現化を更に図る

- ・自分で課題を見つけ、自ら学び、判断し、よりよく問題を解決する能力
- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し思いやりと感動する心
- ・たくましく生きるための健康や体力

(2) 教育改革が求めるものを理解する

- ・平成8年・中教審答申⇒ゆとりの中で「生きる力」を
- ・平成15年・「確かな学力」と「豊かな心」⇒子どもたちに「生きる力」を

(3) 学びの途切れ、評価スパンが短い、実際の指導時間が少ない

2、目標(平成15、16年度)

- 子どもが創る楽しい学校
- 地域に学び、地域に生きる、子どもが主役の元気な学校

* 2学期制での可能性

3、羽村東小学校の2学期制の歩み

*平成15年度 羽村東小学校2学期制導入

☆平成15年度東小の教育の柱

- 感動・・・◎感動する心をもち、行動でき、それを表せる力
- ・感動させる「授業」
 - ・より良い授業の探求
 - ・行事等の取組の確保と充実
 - ・一人一人が主人公
- 関心・・・◎自分のやりたいこと、自分の課題を見つける力
- ・興味・関心をもたせる授業
 - ・主体的に課題追求、課題解決できる力
- 感謝・・・◎互いに認め合い、感謝の心を素直に表せる力
- ・他者への感謝の気持ちをもたせる「指導」・感謝を表現できる「おあしす」

2学期制実施初年度、子どもたちの戸惑いは、ほとんど見られない。
保護者への学校アンケートをとった結果、学校の「説明責任」不足を痛感する。

☆平成16年度東小の教育の柱

- | |
|------------------------------|
| ①セーフティー・・・◎安全・安心 |
| ②シンプル・・・◎単純、明快 ◎重点化、焦点化 ◎簡素化 |
| ③スピーディー・・・◎迅速、即応 ◎個に応じた対応 |
| ④サービス・・・◎児童・保護者の満足度 ◎信頼 |

➡ 15年度の2学期制の実践を基に、16年度、教育の柱を①～④に変化させた。羽村東小学校の2学期制2年目の実績と捉える。

➡ 保護者、地域の意見を反映するとともに、学校から保護者、地域への期待も機会を捉え、学校便り等で発信していく。

4、実施概要

(1)教育課程編成の在り方

- 長期的な学習サイクルの活用を基に、2学期制の良さを生かした教育課程を編成する。
- 実質的な指導の時間を増やし、学習や生活等の学校生活にゆとりをつくり、指導を充実させる。
- 羽村東小の学校教育全般を視野に入れ、学期の区切り方を設定する。

具体的な実施例

- ・羽村東小学校では、平成16年度、年間204日の授業日数を確保した。
6年・実授業時数964、7 行事時数104、5 合計1,069、2
- ・夏季休業日の日程、秋季休業日の設定について検討し平成15年度より実施している。
平成16年度 夏季休業 7月24日(土)～ 8月24日(火)
秋季休業 10月 9日(土)～10月13日(水)
- ・2学期制の移行に伴い、羽村東小では平成15年度より5年生の移動教室を1泊2日から2泊3日とした。
- ・5、6年生の移動教室を、夏季休業前に実施している。
平成16年度 5年生「清里羽村市自然休暇村移動教室」
6月23日(水)～6月25日(金)
6年生「日光移動教室」
7月12日(月)～7月14日(水)
- ・夏季休業前の個人面談を平成15年度より実施している。
7月 5日(月)～7月16日(金)
- ・夏季休業時に、のべ99講座(本校職員の講座74、保護者・地域の方の講座25)サマーセカンドスクールを開校した。
前期 7月27日(火)～8月11日(火)
後期 8月18日(水)～8月23日(月)
- ・保護者、地域と学校が連携を図り子どもたちを育む学校行事として、昨年度に引き続き「東小地域フェスティバル」を教育課程に組み実施した。10月23日(土)

- ・学校公開2回の日程を、平日と休日に設定し保護者・地域の方が来校する機会を増やす。

1回目 9月24日(金) 2回目 1月29日(土)

(2) 2学期制の良さを生かした学習指導について

- 「授業こそ学校と教師の命
- 意図的、計画的指導と授業及び評価の工夫
- 学年や児童個々の発達段階に応じた基礎・基本の定着
- 指導すべき事項、考えさせるべき事項、体験させるべき事項の明確化

具体的な実施例

- ・週ごとの実施授業時数を元に、月ごとの授業時数を全員の教員が提出している。計画的な指導、立案のもととなっている。
- ・各学年の月別・教科別時数を表で提示し、授業時数を満たしたうえでゆとりをもった指導の充実を図っている。
- ・夏季休業中の学びを継続するために、夏季休業前に個人面談を設定し、じっくり、ゆっくりに保護者との面談を実施した。
- ・面談資料として、通知表補助簿(資料参照)を作成し、それをもとに面談を行った。
- ・通知表補助資料として、観点別評価内容、既習単元等、保護者に説明した。
- ・評価規準について、具体的な例を示し、保護者の理解を得た。
- ・平成15年度、2学期制の移行の年に羽村市研究指定校として国語科の発表を行うとともに、ALTの派遣を受けた。教員自らが学び体験する機会を得た。
- ・休業中の学びの継続の一環として、「サマーセカンドスクール」を実施した。のべ約3600名の児童の参加があった。
- ・年間に予定している校内研究授業の他に、今年度は、個々の教員が学年や全教職員に呼びかけ互いの授業を参観し合う姿が見られる。

(3) 学校行事について

- 羽村東小の地域、学校の実態を加味し、学校行事を見直した。

具体的な実践例

- ・学校行事のために必要とする時数を割り出し、検討した。年間計画の中に明示した行事の時数を厳守するようにし、授業時数を減らすことのないようにした。
- ・昨年度から、保護者、地域、学校が一体となり子どもたちをはぐくむ「東小地域フェスティバル」を学校行事として立ち上げた。
子ども自らが選んだ「竹」を素材にした様々なものを制作させることを通し、工夫し、作りあげる喜びを体験させる。
今年度も保護者、地域、ボランティアの方、学校、総勢1200名以上が集った。

(4) 2 学期制評価および成果と課題

○保護者への外部評価を平成 1 5 年度に 2 回、1 6 年度には 2 回行った。

- ・ 2 学期制に対するマイナスの評価は、今年度はほとんどない。

○成 果

- ・ 学習、評価、行事等において、「今までは…」という考え方は通用しない。羽村東小学校教育のあり方を見直す機会となり、教職員の意識改革が進んだ。
- ・ 保護者、地域、学校との連携が深まり、「子どもたちを全員で見守ろう」という意識が更に高まった。

○課 題

- ・ 長いスパンで子どもたちの力を伸ばすための指導法、必要な記録簿等、教職員全体で更に研修を深めることが課題である。

(5) その他の 2 学期制の良さを生かした教育活動

○今年度より、地域の方から「東小地域応援団」を募集している。

「東小地域フェスティバル」、「サマーセカンドスクール」、3、4 年生「国語・書写」の授業等、教育活動の様々な場面で協力をいただいている。

(資 料) 個人面談資料(自己評価は児童自身が自分の生活を振り返って自分で評価)

個人面談資料 6 年 組()			
教科	項目	学習の様子	評価
国語	読むこと	・ 文章の内容を正しく理解している。	△○○
	漢字	・ 字をていねいに書いている。・ 習った漢字を正しく書いている。	△○○
	文を書くこと	・ 内容が伝わるように文章を書いている ・ 自分が考えたことなどを文章で表現することができる。	△○○
算数	知識・理解	・ 分数の大小の比べ方が分かる。・ 通分や約分の意味を理解している。	△○○
	計算	・ 通分や約分が正しくできる。・ 分数のたし算やひき算が正しくできる。	△○○
	数学的な考え方	・ 文章問題などで正しく式を立てて答えを出すことができる。	△○○

*◎は十分目標に達している。 ○は目標に達している。 △はもう少しで達する。

自己評価

生活の様子	自己評価
・ 気持ちのよいあいさつや返事ができる。	よい ・もう少し
・ 話を終わりまでしっかり聞くことができる。	よい ・もう少し
・ 忘れ物をしないで、学習の準備ができる。	よい ・もう少し
・ 思いやりをもち、仲良く助け合うことができる。	よい ・もう少し
・ 係りや当番の仕事を、最後まで責任をもってすることができる。	よい ・もう少し

羽村市立羽村西小学校

〇わが校のグランドデザイン

はじめに、「2学期制」があったわけではありません。

はじめに、わが校で考えた「学力」の基本構造がありました。

その「学力」を保障するために考え、選択した結果が、

「2学期制」です。

1. わが校の「学力」のとらえ方

- ・〔ゆとり〕の中で〔生きる力〕
- ・問題発見能力・問題解決能力
- ・ふるさと「西地区」の自然・人・文化と学校の教育をつなぐ

生きる力（C学力）

- 生きる力のうち「知」にかかわる
「自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」

- ・学力の質の向上
「学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高めるとともに、学びの質を向上させる。」

基礎基本（B学力）

- 学習指導要領の各教科等の目標内容のこと
- 知識・理解だけでなく関心・意欲態度、思考・判断、表現・技能等の資質能力を含む

- ・地域、学校によって格差があってはならない学力
- ・一人一人の定着状況の把握
習得状況に応じた指導

基礎学力（A学力）

- 読み、書き、計算、話す・聞く、コンピュータ操作能力などのすべての学習を成立させる上で欠かせない基礎的な知識・技能
- 各教科における独自の基礎的な知識・技能

2. 2学期制の実際

このような学力を児童に保障するためには、バランスのとれた教育課程を編成する必要があります。バランスのとれた教育課程を編成するには・・・

(1) ゆとりのある教育課程を編成し子どもの指導にあたりました。

従来の3学期制で計算すると、今年の授業日数は199日です。

2学期制を導入したので、授業日数は**204日**となり、**5日間**も授業日数が**増加**しました。この**5日間**のゆとりを生かして、**体験的学習、問題解決学習**などを多く取り入れるなど、指導の充実を図り、**わかる授業、楽しい授業づくり**を進め、**学力の質の向上**を図ってきました。

生活時程の中に毎週、**15分間（1/3時間）のスピーチタイム**を教育課程の中に位置付け、「話す・聞く」の基礎学力が身に付くようにしました。このような「ゆとり」を生かし、授業日数や授業時数を十分確保することができました。

以上のように**本校では、「ゆとり⇒学力向上」**となります。

(2) 長期休業日をはさみ子どもの「学び」の連続性を大切にしました。

長期休業日前に個人面談を設定し、保護者と学校が、共に子どもの成長のために話し合いました。補助簿をもとにして具体的に話し合い、長期休業中の子どもの**課題**を明確にしました。そして、休み明けの充実した指導に結びつけることができました。

また、**サポートデー**を実施しました。子ども一人一人の不得意な分野やもう一度復習してほしい内容を教員と一緒に学習したり、相談にのったりしました。

7月26日（月）から8月5日（木）まで実施しました。

前期末である9月末まで、一人一人の学びをじっくり見極めながら次の学習へと進めることができました。

(3) 長期休業日中に豊かな「学び」を用意することができました。

夏休み特別講座として、「**百人一首かるた講座**」「**私の人生絵巻物講座**」等を用意しました。日頃の授業とちょっと違う学習を用意することができました。「私の人生絵巻物講座」に参加した5年生は、「自分の夢は実現する。願いはかなう。」という思いをもちながら、葉書大の画用紙に生まれた時から現在まで、そして自分の将来をイメージしたことを何十枚もの用紙に描いていきました。それをつなぎ合わせて自分の人生絵巻物を作りました。感想として、自分自身を肯定的にみることができ、これからの人生を前向きに捉えることができた感想に書いていました。このような進路指導的な学習は夏休みだからこそできました。広い意味での「**生きる力**」を育てる講座を開くことができました。

(4) 長期休業日前に、個に応じたきめの細かい指導がきました。

7月と12月が普通の授業日として教科学習の充実に利用できました。長期休業日一日前まで給食があり午後までたっぷり学習ができました。教師側も時間的・精神的余裕ができ子どもの指導に全力を傾けることができる環境がつけられました。

7月と12月が普通の授業日として設定できたことにより、**算数の少人数学習指導**を年間計画通りに実施することができました。しっかりと一人一人の能力や課題に合った学習を推進することができました。

(5) 1年生にじっくりと一人一人に合った指導を展開することができました。

初めての学校生活がスタートする1年生にとっては、まず学校生活に慣れ、その生活や学習規律を一つ一つ学び、身に付けていく期間が1学期です。しかし、3学期制では、まず6月末までの学習で評定を出さねばならない実情がありました。それは1年生の実態とかけ離れていました。1学期は、1年生にとってはようやく学校生活に慣れ、ひらがな指導が終了した時期であり、テスト等の読み取りはなかなか難しく、入学前からの個人差がそのまま、まだ大きな差がある状態です。また、ひらがな指導が終わったとはいえ、それを読みこなしたり、使いこなすには至っていない時期でもあります。そのような中で評定をつけなければならず、子どもの実態を反映させるより評定のための評定となる傾向がありました。

2学期制になり、7月末までじっくり一人一人の子どもの実態や学習の達成状況を見取りながら指導にあたることができ、教師も子どももゆとりの中で授業を進めることができました。2学期制のもつ学びと評価のゆとりは、

1年生にできるようになった喜びと自信をもたせていく上で重要な働きをしました。小学校生活の始まりをこのようにゆったりとした指導の中で行い、自己肯定感をもたせることができたことは、これからの6年間の小学校生活を充実したものとする上で大変意義深いものとなりました。

(6) ボランティアによる「読み聞かせ」活動を充実させました。

2学期制で、「ゆとり」を生み出す中、保護者や地域のボランティアの方による多様な学習活動を積極的に取り入れました。「朝の活動」時間に各クラスを回って読み聞かせをしていただきました。クラス毎に年間3回～6回の読み聞かせを行いました。また、年間2回、国語の時間を使っての「お話会」はボランティアの方々の工夫によって読書好きの子をたくさん生み出しました。

これも、十分な授業時数の確保の中で、年間計画に組み込むことができた結果です。

(7) 5年生は2泊3日の移動教室を実施しました。

昨年までは、1泊2日で、清里にある市の施設を利用して5年生は移動教室を実施していました。1泊2日では清里の特質を生かした活動を子どもたちは十分体験することはできません。しかし、3学期制のもとでの授業日数では、十分な授業時数が保障されません。

2学期制を導入した結果、授業日数が大幅に増え、子どもたちに「意義深い豊かな移動教室の体験学習」を味わわせてあげることができました。

子どもも保護者も共に、移動教室の日数が増えたことに好意的で、しかも、余裕あ

る授業時数で教科学習も十分に保障されていることに安心をしていました。

移動教室で「総合的な学習に時間」の授業を行い、**体験学習、問題解決学習**を実施することができました。今後、さらに充実したものにする端緒ができました。

(8) 2学期制の中で、学校行事の教育的意義を発揮させました。

3学期制の下での時数確保の努力として、学校行事の削減が全国的に進みました。その結果、目的が形がい化した学校行事が増え、地域から見直しを迫られている学校もあると聞きます。本校は、**学校行事（運動会・学芸会等）**でしか培えない**身に付けるべき力**を大切にしてきました。しかし、学校行事を充実させると、3学期制の中での教科指導の時数確保は困難でした。そこで、2学期制を導入した結果、授業日数が**5日間**増加し、教科指導の時間確保とともに、学校行事に対しても余裕ある時間をあてることができました。もちろん、練習や準備に過大な時間を取らないよう授業時数の管理を毎週行い、計画的に行なっています。

子どもが学校生活を楽しく豊かなものとするため、互いに努力を認めながら協力して、美しいもの、よりよいものを作り出す喜びに浸りながら活動している姿をみると、学校行事は今後も大切にしていこうと考えています。そのためにも、授業時数の確保のために、2学期制をより発展させていく必要性があると考えています。

(9) 学校公開日を6倍に増やすことができました。

昨年度の学校公開日は1日だけでした。今年度は3回に分けて合計**6日間**の学校公開を実施しました。一挙に6倍の日数に増やしました。そのうち、**2日間**は**土曜日**の開催としました。この土曜日の学校公開は好評でした。土曜日に給食のある他の曜日の時間割で授業を実施します。しかし、土曜日のため、給食がなく、4時間授業となります。午後の授業時数がカットされます。しかし、2学期制の下、年間を通してたっぷり授業時数が保障されていますから、午後の授業時間をカットされても余裕があります。2学期制が土曜日の学校公開を推進させた一因であることはまちがいありません。

3. 今後の課題

2学期制の魅力はなんといっても「ゆとり」です。教師の「ゆとり」と教育課程の「ゆとり」が、子どもの教育の質の向上につながっていることがわかりました。

さらに、2学期制の下、本校の教育課程を充実したものとするには以下のような課題があると考えています。

(1) 2学期制の利点を生かす「総合的な学習の時間」の充実を図る

2学期制の下で、夏休みの課題も含めて「学びの連続性」を図った「総合的な学習の時間」を新たに構築する必要があります。

(2) 前期の個人面談と通知表の充実

学校として学習指導面等の説明責任を果たすために「通知表を目から入る成績通知」とし、個人面談を「耳から入る成績通知」と位置付け、その充実を図ります。

(3) 学校として夏季休業日の活用を考える。

2学期制では、夏季休業日は学期の区切りではなく、あくまでも学期途中として位置付けられます。子どものために効果的なものとなるよう工夫が必要です。

羽村市立富士見小学校

1. 2学期制の利点を生かす教育課程の編成

本校の教育の重点の一つは「学力保障」（基礎学力の育成と充実）である。この実現に向けて2学期制によって生まれるゆとりを最大限に活用する試みを行った。

富士見小では

「学校週5日制」のもと、「ゆとりの中」で「生きる力」を育む

一人一人のよさが生きる！！

一人一人の可能性が伸びる！！

一人一人が主体的に学ぶ！！

ことのできる学校をつくることをねらいとして・・・2学期制を実施する

(1) 授業時間の確保

始業式、終業式の回数減、授業日数の弾力的運用（最低201日を確保）

(2) ゆとりをもって学ぶことができる（学期の長期化）

評価期間に余裕、連続的・発展的学習が可能

(3) 長期休業を生かした学習計画

長期休業を一つの学期のサイクルの中で捉える・学習相談日の設定

(4) 個別面談の実施

3者で夏休み前に面談－生活・学習上の課題や今後の方向性を明確化

(5) 行事の弾力的配置

3学期制では評価との関係で実施時期が限定されてしまう

7月末、8月末、9月初旬、12月末など以前は不可能だった時期に校外学習等の設定が可能



7/9 5・6年生全クラス毎の金管楽器サマーコンサート

3年生以上 英語活動 Let's speak!



2. 実践例

(1) 授業日数確保の工夫

☆ 授業時間確保なくして基礎学力の定着無し と考え、以下のように年間カリキュラムのデザインの大枠を決めた。

- ・ 2学期制を実施する。
 - ・ 入学式、前期始業式を4/6とする。
 - ・ 開校記念日を5/6とする。
 - ・ 夏季休業日始を7/21, 終を8/25とする。
 - ・ 前期終業式を体育の日の前週金曜日とする。
 - ・ 秋季休業日を体育の日の翌日・翌々日とする。
 - ・ 後期始業式を体育の日の週の木曜日とする。
 - ・ 冬季休業日始を12/24, 終を1/7とする。
 - ・ 後期修了式を3/24とする。
 - ・ 卒業式を3/25とする。
- * 年間授業日数を最低201日確保する。曜日等の関係で確保できない場合は、冬季休業日終を早めて対応する。
- (授業時数を標準時数プラス35時間は最低確保するため。)
- (平成16年度の冬季休業終は、1/5となる。)

平成16年度～富士見小学校管理運営規則から

(2) 「わかった・できた」という姿=基礎学力の確実な定着への工夫 (時間割の工夫)

① 朝の10分間読書(火・木・金の朝8:20～8:30) 【※月-児童朝会 水-音楽朝会等】

読書の習慣を育て、読書力の向上を目指した。

② モジュールタイム(火・木・金の朝8:30～8:45)

火・木・金の朝15分国語・算数の基礎を指導した。教科部、教務部が設定した年間指導計画(前期16回、後期19回)に基づいて以下のような内容で行った。

1～4学年は、A文字・漢字、B計算、C音読

5・6学年は、A漢字、B計算、C書写

「100マス計算」などに取組み、計算のスピードや正答率をアップさせた学年や音読の実践により、友だちの前での表現に自信がついた子どもの報告があった。

③ 算数の少人数・習熟度別指導

4年生T.T 5・6年生で、2クラス3展開の少人数・習熟度別指導を行い、きめ細やかな指導で基礎学力のアップを目指した。一人一人が自分の力を見つめ直し、意欲的に取り組む、よいきっかけとなっている。

(3)特色ある教育活動の工夫

仲間と共に育つ喜びを

- クラブ活動 子どもたち自身で所属クラブを選択する。
- 運動会 児童会が司会・音楽委員会の演奏によって開閉会式を行う。
児童が考えた児童会種目に全員で取り組む。高学年は、組み体操で、共に創りあげる喜びを味わう。
- 金管演奏 高学年は全員金管楽器に取り組み、年2回クラスコンサートをやっている。6年生が5年生を指導し、伝統を引き継いでいる。
- 国際理解 多く在籍しているスペイン語圏の児童と共に学び合い、日常の人と人とのふれあいの中で、他者理解をすすめる。英語活動は、3～6年生は総合的な学習の時間で年間ALTと10時間、低学年は「英語で遊ぼうコーナー」で、英語に慣れ親しむようにしている。
- 読書コーナー PTAの「読み聞かせサークル」の活動を基盤に、2階ホールに「読書コーナー」を新設、寝転がっても読めるリラックスできるスペースとして大人気である。

富士見小学校の春・夏・秋・冬

前期

- 4月
 - ・始業式・入学式
 - ・保護者会
 - ・遠足(2・3・4年生)
- 5月
 - ・1年生を迎える会
 - ・遠足(1・5年生)
 - ・地域訪問
 - ・学校公開
- 6月
 - ・水泳指導開始
 - ・6年生移動教室(日光)
- 7月
 - ・個人面談
 - ・サマーコンサート(5・6年)
 - ・夏休み水泳指導教室
 - ・夏休み学習相談日
- 8月
 - ・夏休み水泳教室
- 9月
 - ・社会科見学(日野自動車5年)
 - ・運動会

後期

- 10月
 - ・後期始業式
 - ・5年生移動教室(清里)
 - ・遠足(1・2・3年生)
- 11月
 - ・社会科見学(都内/4年生)
 - ・合同音楽会
 - ・学習発表会
- 12月
 - ・社会科見学(都内/5年)
 - ・授業参観・保護者会
 - ・社会科見学(都内/6年生)
- 1月
 - ・学校公開・道徳地区公開講座
 - ・書写展
- 2月
 - ・6年生を送る会
 - ・お別れスポーツ大会
 - ・金管コンサート(5年)
- 3月
 - ・ラストコンサート(6年)
 - ・ひな祭りコンサート(4年)
 - ・卒業式

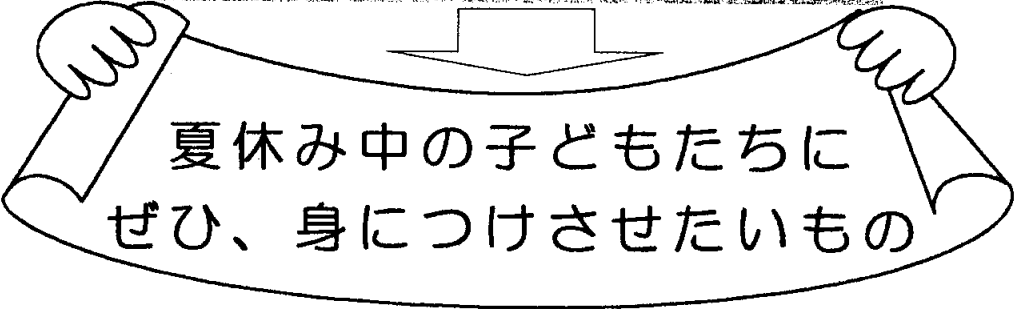
(4)夏休みの過ごし方の工夫

2学期制において、特に夏休みは前期の途中に入る長い休みとなるので、子どもたちにとって、有意義で有効な夏休みにするために次のような取組みをした。

三者（児童・保護者・担任）面談

7月までの学習面・生活面の様子を資料をもとに話し合いをします。

学習面・生活面の伸びを確かめるとともに、課題を明確にし、夏休みの過ごし方を助言します。



夏休み中の子どもたちに
ぜひ、身につけさせたいもの

☆学習相談日 7/26～7/30

☆夏休みプール7/21～8/6

☆金管自主練習 7/23・24 7/27・29 8/23・24

(4)評価・通知表の工夫

年間のカリキュラムを見直し、教科、単元ごとの評価規準を明らかにし、評価規準集を作成するとともに、通知表の見直しを行った。今までより長いスパンで児童の変容を見るために、単元別に評定を出していた教科も「観点別」の評定に変えた。また、評語も今までの「目標に達している・目標に近づいている・もう少し」から「よくできる・できる・もう少し」と評価規準に合わせ、変更し、保護者にも知らせた。

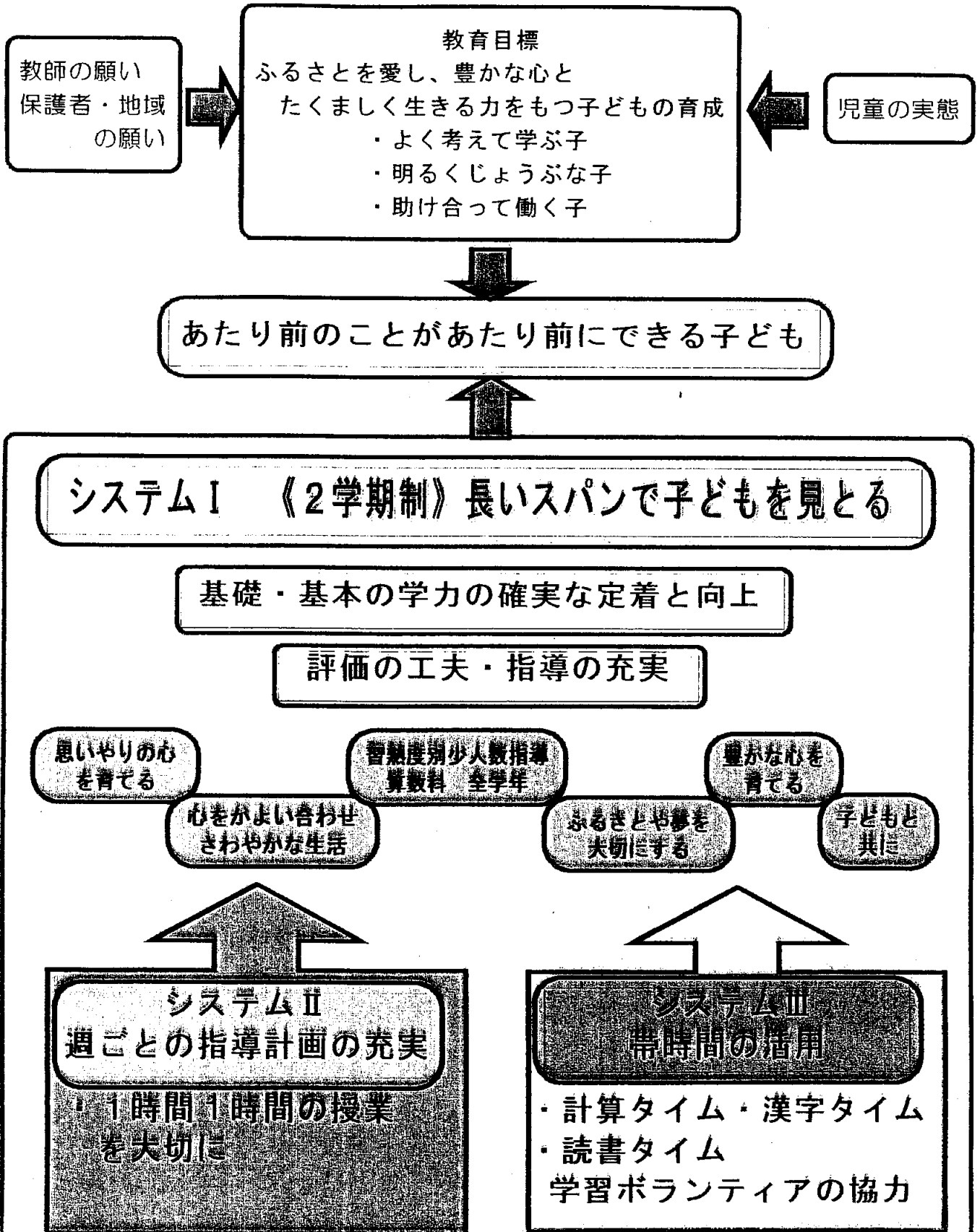
(5)保護者・地域にむけて

- ①保護者・地域に向け学校だより「ふじみっ子」を配布。カラー化、写真での紙面構成を工夫し、学校の「今」が伝わるように努力した。
- ②学校評議員会を開催。12月には、職員会議を公開した。
- ③年2回の「学校公開」、コンサート、運動会、学習発表会には日常の学校の公開という観点から、地域の方々にも公開した。

3. まとめ

従来は学期末だった7月や12月の評定・事務整理等が少なくなった分、教師も児童もゆとりができた。この時期に個別指導を充実させたり、個人面談で保護者と話し合ったり、教職員の研修を行うことができた。さらに、柔軟な発想で教育活動を見直していきたい。

【学校システムの改革】



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
期	前期 (4月6日~10月7日)					
	伸ばしつつ しっかり基礎づくり					
休	春				夏	
	前期始業式 対面式 保護者会 なかよし 保護者会	学校運動会 なかよし 学校	苗 演 不 あ な 口	開始 (5日)	夏季水 夏季水 夏休み 水泳指 夏休み作	読書旬間 清里移動教室 保護者会 4日~16日
	<p>一人一人の課題がはっきりした夏休み</p> <p>8月1日 ~ 8月24日</p>					
	23日		10日		24日	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> □ は新年度より新しく 入った行事 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ☆なかよし班で楽しくお弁当☆ ~偶数月の最終金曜日に予定~ </div>		

大切にしてい

思いやりのある子ども
なかよし班活動・児童会活動
みんな楽しく 笑顔で活動
みんなで協力 きっちり仕事
みんなのやさしさ 花いっぱい

地域に飛び出そう！
積極的に市のスポーツ行事
などにも参加します

心がかよいあう
さわやかな生活
3つの大切にしたいこと
1 あいさつ
2 そうじ
3 「はい！」と返事

自分の力
を伸ばす
学ぶ喜び
算数の少人数指導
習熟度別グループ指導
1年生から6年生まで
全学年でやります

とがあたり前にできる子ども』を育てる

10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月

> 後期 (10月12日~3月25日)

じっくり定着 そして伸ばし高める

秋

冬

春

稲刈り(上旬)

前期卒業式(7日)

秋季休業日

10月20日、11日

後期卒業式(11日)

(日)

(日)

新しい地域と一体の活動 田植え・稲刈りの農業体験

たっぷりとした時間の中で、じっくり学習
授業日数210日！授業時数1000時間！

春期休業日(26日)~4月5日
修了式(24日) 卒業式()

6つのポイント

PTA行事

子どもが楽しめる行事を
やっていきます
カレーライスづくり
スポーツ&もちつき

金管バンド

4年生から
入れます

豊かな心を育てる
読書活動を充実します
毎週金曜日の
「読書タイム」
年4回実施する
「読書旬間」

栽培活動

いつでも
花いっぱい
菜かです

ふるさとや夢を大切に
あこがれ夢広場
海外へも目を向けてみよう
英語活動が1年生から
6年生まで年間に
10時間実施されます

子どもと共に
一人一人の子どもと
しっかり向き合い
一人一人の子どもの
よさを伸ばします
火曜日は先生と遊ぶDAY

《システムⅡ》

週ごとの指導計画

今週の予定

平成16年5月24日 ~ 5月29日 前期 第8週

6年3組

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜
行事	学校公開	学校公開	学校公開 一斉下校	学校公開 耳鼻科検診 理15	学校公開
朝	朝礼	漢字テスト	朝自習	集会	読書タイム
1 教科	道徳	社会	理科	家庭	音楽
単元	素足の聖火ランナー	聖武天皇と都の文化⑤	生き物と養分1	家族が喜ぶおかず⑤	曲のまとまりを感じて
55分	世界で苦しんでいる人を知り 国際親善への理解を深める	貴族が力を持つようになって きた頃の様子を知る	日光の植物に対する動きは 何だろう？	安全面を考えて、おいしい ポテト料理を作ろう	長調と短調の旋法の違いを感じ じり表現に活かす
学習内容	・国際理解教育 ・世界で苦しんでいる のために、私たちに こと	・海を渡った人たちの苦労と 日本に伝えたもの ・貴族たちのくらしを調べる	・日光によくあたっている葉と とあたっていない葉とでは どこが違うのか ・比較実験の方法を考える	・調理実習 ・ポテト料理 ・火の取り扱いに注意して	※原島教諭 「季節の歌」 「勇氣一つを友にして」 原島教諭
2 教科	書写	国語	国語	家庭	国語
単元	毛筆書写	言葉の広がり	砂漠に挑む①		
55分	案づかいに気をつけて 書こう	形が似ている漢字や同 語を正しく書こう	筆者の考えと事実を 読もう		
学習内容	※池水教諭 ・右ばらいと左ばらい ・とめ、はね	・似ている漢字を探そう ・「砂漠に挑む」の漢字 ・同じ音で意味の違う漢字	・全文を読んで全体を 分ける ・事実の部分 ・筆者の願い		
3 教科	総合	体育	算数		
単元	なかよし班栽培活動簿	陸上運動・リレー・風船	分数のパーセントアップ		

時数計算は全て自動計算化

月	火	水	木	金	今週	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	学活	総合	読書	書写	国語	行事	合計	日数	校長印
1	道徳	社会	理科	家庭	音楽	5	4	5	1.666	0	1	1	2	2	1	1	2	0	1	4	0.333	25.99	5	
2	書写	国語	国語	家庭	国語	累計	26.33	18	27.66	15.33	0	8	6.666	9.666	27.66	5.666	5.333	14	1	1	24.33	18.33	164.3	35
3	総合	体育	算数	理科	社会	残り	148.6	89	148.3	81.66	0	48	44.33	46.33	72.33	31.33	31.66	96					837.6	175
4	算数	算数	図工	英語	社会	率	15.04	16.82	15.71	15.80	0	14.28	13.07	17.26	27.66	15.31	14.41	12.72	72727	273			16.40	16.66
5	体育	学活		算数	算数	757	計算タイ																	
6	国語	757		社会	総合	4		4	24	0.888	5.333	2												

本校の週ごとの指導計画の特徴

- 単元の指導計画と同じ表計算ソフトでつくることにより、指導計画のねらい、学習活動・内容をそのまま週ごとの指導計画にコピーすることで、効率的な運用が図れる。
- 表計算ソフトで作成してあるので、左下の時間割枠に教科名を入力するだけで自動的に実施時数が計算できる。
- いくつかの簡易な操作により、3分の1単位時間までの時数計算ができる。
- 毎時間の授業の中で、十分満足できる活動やつまずきが見られた場合に、すぐに記録しておくよう左ページにメモ・記入ができる。
- この毎時間の評価活動により、再び指導計画・評価計画に反映させていくことができる。

《システムⅢ》

帯時間の活用

漢字タイム (毎週火曜日) 栄小オリジナル漢字検定
読書タイム (毎週金曜日) 「漢検」に挑戦! 2月4日本校で実施
 年間4回の読書旬間を実施

朝

昼 **計算タイム 13:45~13:55(月,火,木,金)**
 計算力の向上 学習したことの反復練習 定期的な振り返り
 学習支援ボランティアの協力

成果と課題

- たっぶりの時間を確保でき、その中でじっくり学習することができた。1000時間の授業時数を確保するとともに、6年生で年間80時間の学校行事時間の確保もできた。(学校行事の充実)
- 週ごとの指導計画の充実によって、1時間1時間の授業を今まで以上に大切にしている教師の姿が見えてきた。またつまずきの分析と手立てを考えることによって、授業の質が高まりつつある。
- 全体的な学習の伸びを数値化する等客観的な学習の成果を確かめていくことで、基礎・基本の学力の定着と向上を確実にものにしていくこと。

羽村市立松林小学校

1. 教育課程の在り方

本校は、児童一人一人に豊かな心と確かな学力を身に付けさせ、次代に生きる力を育成するために、教育目標の具現化をめざして組織的・計画的に教育活動を行っている。

3学期制では、授業日数や時数が確保しづらい、長期休業の度に学習の連続が途切れるなどの課題があった。そして、管理運営規則の改定により、長期休業日の始まりと終わりを一定制限の下で各学校が設定できることとなり、授業日数を増やすなどの個性的な教育課程を編成できるようになった。3学期制に比べて2学期制が全て良い訳ではなく、課題も多い。しかし、2学期制の良さを生かした教育活動の見直しと新しい取り組みにより、学校が大きく変わるチャンスととらえた。

本校の教育課程編成にあたっての基本方針は、以下の通りである。

- ①ゆとりのある授業時数を確保するとともに、授業の内容を改善していく。
- ②学習の連続性と発展性を大切にする。
- ③評価の在り方を再考・改善し、児童の成長を長いスパンで見守り、育てていく。
- ④豊かな体験活動を行う。
- ⑤年間を通して、行事を精選し、適所に配置する。併せて行事の内容を改革する。
- ⑥週時程、生活時程、通知表、成績補助簿などを2学期制に合わせて改善する。
- ⑦長期休業の在り方を抜本的に見直す。
- ⑧本校の伝統や特色を生かした教育課程にする。
- ⑨児童や保護者・地域の願いを取り入れていくとともに、連携を図る。
- ⑩地域の教育力や地域教材の導入を行う。

2. 学習指導について

(1) ゆとりある授業日数・時数による充実した学習

平成16年度の3学期制による授業日数が199日（5・6年）のところ、本校では201日と、2日間多く設定した。また、週あたりの授業時数も1時間多く設定した。以上のことから、各教科に配当される授業時数が大幅に増加した。学習指導要領の標準時数に比べ、学年トータルで62～82時間、国語や算数で20～30時間上回っている。このことから、児童がよく理解できるようにじっくりと取り組んだり、復習したり、発展的な学習に取り組んだりできるようになった。

(2) 通知表の改訂、成績補助簿の作成

2学期制への移行に合わせて通知表を全面改定した。①観点別絶対評価、②「総合的

な学習の時間」の文章表記、生活面の評価、押印等、一般的な必要項目を揃えた上で、年間を見通した、児童の育ちが分かる、双方向的な平成17年度通知表を模索している。

また、長い夏季休業日を学期の途中ととらえ、各学級担任が休業日前の学習の様子をまとめるとともに、休業中のめあてを記した成績補助簿を作成し、面談で説明した。

(3) 少人数算数授業による個に応じる指導の工夫

2学期制施行と同時に導入された少人数集団による算数授業は、均等・習熟度別・課題別など様々なグループ編成から個に応じたきめ細やかな指導を行っている。

(4) 授業力向上を目指す校内研究

2学期制導入により、一学期間が長くなった。そこで子どもたちは、じっくりと学習に取り組め、学ぶ喜びやできる・わかる楽しさなどの成就感を味わうことができる。教師も自ら研修し、よりよい授業の創造に努めなければならない。そこで、研究主題を「進んで学び、確かな力をつける子をめざして」として、「基礎・基本の力を向上させる算数科少人数指導の実践を通して」校内研究に取り組み、低・中・高の3分科会が授業実践を通して主題の実現を旨としている。

(5) 特色ある学校づくり交付金の活用による「いきいき体験ふれあい計画」の実施

2学期制下の特色ある教育活動として、地域人材を教育活動に積極的に導入し、児童の体験活動の幅を広げると共に、授業の活性化を目指している。一例を挙げれば、音楽発表会への取り組みの中で、和太鼓の荒馬座を招へいし、3年と5年が演奏を聴くとともに実技指導をお願いした。技術だけでなく、太鼓の魅力を学んだ児童は、大変すばらしい演奏を披露し、喝采を浴びた。

3. 学校行事について

(1) 夏休みセカンドスクール

従来の3学期制と違い、2学期制では夏休みが前期の中に位置することになる。そこで、児童を従来のように家庭や地域に帰しつつも、学習リズムや生活リズムが継承できるように、学校が地域と一体になり、さまざまな体験活動の場を提供した。松林小夏休みセカンドスクールは、①校庭キャンプ、②わくわく講座、③プール、④補習の4本柱からなる。

① 校庭キャンプ 7月31日(土) 児童・保護者・地域で計338名参加

学校とPTAまた地域(青少対、自治会等)が一体となった、児童と家族のための新しい行事を模索する中で生まれたのが校庭キャンプである。特に、地域の掘り起こしと関係

づくりをねらいとした。内容は、飯ごう炊さん、キャンプファイアー、羽村市動物公園ナイトツアーであり、テント張りは当日の天候の為に中止にした。

当日は、20のグループを作り、協力しながら楽しく活動することができた。校庭キャンプ用の備品や消耗品を購入するにあたり、本年度配当された特色ある教育活動推進事業の予算を充てた。なお、7月31日の土曜日を教職員の勤務振替により勤務日としたため、ほぼ全教職員が参加できた。

② わくわく講座 全19講座 児童453名参加

夏季休業日の特性を生かし、学習指導要領にとらわれない内容の体験型講座を多数開設し、児童に自由に受講させた。講師の招へいや消耗品購入には、特色ある教育活動推進事業の予算を充てた。講師は、専門家や地域の一芸に秀でた皆さんや、公共機関の職員など、様々なジャンルの方々を招いた。講座の運営は、主に校長・教頭及び出勤した教職員が行った。

③ 夏休みプール 全21回 995名参加

今年度より、夏休みプールの指導を教員中心の形に指導計画を直し、大学生の補助員を活用しながら実施した。学年別のグループ構成ではあるが、泳力別グループ編成も適宜行い、泳力の向上を図った。大学の水泳部員である補助員は、児童個々へのアドバイスや安全管理を的確に行っていた。

④ 補習 夏休み全期 130名参加

夏休みを通して、児童に学習の場を提供した。学校の小会議室を使い、エアコンの効いた快適な環境の中で、夏季休業前に担任が成績補助簿などを基に作成した課題や、児童自身見つけた課題に向かって熱心な学習を行った。日直や出勤の教員が、アドバイスと安全管理を行った。

(2) 4・5・6年移動教室

2学期制によるゆとりのある時間を活用して、4年以上の3学年にわたる移動教室を市内で始めて実施した。松林小では、8年前から5年で三浦移動教室を行ってきており、特色ある伝統行事となっている。しかし、清里にある羽村市のすばらしい施設を活用した移動教室を実施したいと考え、4年の移動教室を実施した。

① 4年 清里移動教室 1泊2日

初めての宿泊を伴った体験学習。ハイキングや自然観察、天体観測、牧場での乳搾

りやバター作りなど、貴重な体験活動を行った。特色ある教育活動推進予算を活用し、羽村動物公園の赤尾園長を講師に招き、動植物の観察の仕方等の指導をいただいた。

② 5年 三浦移動教室 1泊2日

三浦半島の磯や砂浜を活用した体験学習。磯や干潟の生物観察や、海辺での星座の観測、地引網など、日頃できない活動を行った。また、夕食は、児童自らが飯ごう炊さんでカレーライスをつくった。

③ 6年 日光移動教室 2泊3日

前年度より1泊増やし、ゆとりのある日程の中で、自然と歴史の総合的な体験活動を行った。特に、足尾銅山の影響による旧松木村廃村跡の見学は、児童に深い感銘を与えることができた。

4. 2学期制の成果と課題

夏休みセカンドスクールや、移動教室など子どもたちが生き生きと目を輝かせながら取り組む行事が充実し、学習面でも少人数授業を通して「分かった!」「できた!」等の学ぶ喜びが、子どもの声から聞くことができた。

外部評価からは、子どもたちが毎日楽しく登校でき、学校参観の機会が増え学校だよりなどでも様子がよく分かるとの評価が高かった。また、夏休みセカンドスクールについても大変高い評価を得ている。保護者の期待としては、子どもたちの学習に対する意欲やPTA活動に対する学校や、保護者間の協力体制があった。

今後、2学期制をさらに充実したものにするには、2学期制により何を充実するのか目的を明確にし、それが家庭や地域に伝わるようにすることが大切である。学校行事全体を学校目標達成のための視点から見直したり、1つの学期が長くなったことを活用したりした、学習活動の工夫に関する研究は今後も継続する必要がある。また、3学期制に比べ通知表が2回に減ることが保護者の不安につながらないように、成績補助簿などの評価情報をさらに充実させるとともに、保護者会や学校参観の年間を見通した見直しが必要である。

羽村市立小作台小学校

子どもが伸びる 子どもがかがやく

じっくり・しっかり学ぶことができる学校

たっぷり学ぶことができる学校

いきいき学ぶことができる学校

1、教育課程編成の工夫

(1) 生活時程表の工夫

- ① 夏休み・冬休みの直前まで普通どおりの授業ができるので、年間10時間ほどの授業時間が確保できました。そこで、夏休み前に運動会・家庭訪問・個別面談を組むことができました。それに伴い、行事と授業の両方の充実が図れるように、各学年の指導計画を見直し、単元の入替えなどを工夫しました。
- ② A週時間割表とB週時間割表をつくることで、2週間で3時間の学習が可能になりました。また、長期休業の前後に特別週を設け、3・4年の教科時数の調整もできるようにしました。

(2) 「まなびタイム」の工夫

- ① 15分単位のモジュール学習を採用し、朝の学習時間を作って、国語や算数のドリルやプリントを活用した繰り返し学習を行い基礎学力の充実を図っています。
- ② 「まなびタイム」をきちんと行うために、職員の打ち合わせは児童が帰宅後の4時45分から行うようにしました。教師の計画的な指導のもとに、まなびタイムを今まで以上に充実させました。

(3) 1年間の学習指導計画の工夫

- ① 年間を見通した学習指導計画を作成し、月ごとの学習の実施状況を確認することで、時数の確保を図っています。
- ② 2学期制に対応した単元や題材配置にするために、15年度中に、年間指導計画の見直しを図りました。そのために、長期休業中の連続した学習が可能となるように単元を入れ替えたり、休業中の課題を工夫したりしました。

2、学習指導について

(1) 子どもが伸びる・子どもがかがやく「学び」の工夫

① 基礎的基本的な学力がしっかり身に付くように、2年生から6年生までの算数では少人数指導で子どもとじっくり向き合い、どのような学習形態がその時期の児童に効果的かを考え、習熟度別や課題別など学年に合わせた様々なやりかたでいきいき学ぶ学習の充実を図っています。

② 「地域の人と共に学ぶ学校づくり」をめざした体験学習の工夫

*校内組織に「特色ある学校づくりプロジェクト」を立ち上げ、ゲストティーチャーとして地域の方々をお招きしたり、地域の方々と交流したりして、地域に根ざし、地域の人と共に学ぶ学校づくりを推進してきました。

- ・1年・・・地域の読み聞かせ団体「大きなかぶ」による読み聞かせ・地域の人と共に遊ぶ昔遊び・地域の方の畑で芋掘り
- ・2年・・・地域の読み聞かせ団体「大きなかぶ」による読み聞かせ・地域の人と共に遊ぶ昔遊び
- ・3年・・・地域のことを知ろう「まち探検」「地域のくらし」・畑を見学させていただきの方をお招きしての収穫祭・地域の方と共に学ぶ音楽
- ・4年・・・地域の方から学ぶ「むかしの羽村町」、地域で学ぶボランティア
- ・5年・・・地域のお祭りに積極的に、かかわろう「はむらふるさと祭りのポスターづくり」・地域の方と共に学ぶ音楽・地域の人と学ぶ「習字の学習」
- ・6年・・・地域のお祭りに積極的にかかわろう「はむらふるさと祭り」・地域で学ぶボランティア・地域の人と学ぶ「習字の学習」
- ・クラブ・・・地域の方と学ぶ「パソコンクラブ」
- ・委員会・・・あったかお便りへの全校での取り組み「代表委員会」

*地域の学校評議委員さんからの発案で始まった「夏にトライ」「冬にトライ」は、地域の方々をゲストティーチャーに招いて行う休業日の特別講座です。

- ・夏にトライの講座名・・・「数学の歴史 意外な発見」「楽しい 漢字の裏話！！」「『小作』の歴史を知ろう」「地元の名物を作ろう（茹で饅頭）」「巣箱づくり（すごいお面の作り方を知る）」「味わいのある 絵をかこう」「筆でゆったり字を書こう（習字）」「和太鼓で気分すっきり」「楽しくサッカー上手になろう」「読み聞かせ・読書会」「校庭キャンプ」
- ・冬にトライの講座名・・・「書き初め教室」「漢字の小作台検定」「算数の小作台検定」

③ 「学校農園」を活用した体験学習の工夫

地域の方のご厚意で借りている300坪ある「学校農園」を活用して、生き生きとした生産活動をたっぷり体験し、労働の大切さ・収穫の喜びをしっかりと味わわせています。1・2年は主に生活科の中で行い、1年生は収穫したコーンでポッ

プcoon作りをし、2年生はさつま芋で焼き芋パーティーやリースづくりをしました。また、収穫した物を見ながら図工の時間に迫力のある絵をかきました。3年生以上は理科の時間を使って、じっくりと観察したり、育てたりしています。収穫した野菜を使って、3年生は「豚汁づくり」4年生は「豆腐づくり」5年生は「ふろふき大根づくり」そして6年生は「みそ汁づくり」に挑戦しました。

(2) 児童の「のび」を長いスパンで評価する工夫

- ① 学期末の通知表である年に2回の「あゆみ」のほかに、夏休みや冬休み前にはブレ通知表を作成し、その期間までに学習したことや生活の様子を保護者に知らせました。また、長期休業中に取り組む一人一人の課題を明確にし、長期休業中も学習がとぎれることがないように、家庭と連携を図りながら、学習を進めています。
- ② 毎週行っている学年会では、児童の様子を学年の教員と専科の教員とで報告し合い、学年の児童を複数の目で評価や指導をする体制を作っています。また、教材の研究を深めたり、共通で使える学習ワークシートやプリントを作成したりして、指導の共通化を図っています。
- ③ 「相談日」を夏季休業中に設定し、児童のみならず、保護者との相談にも応じるようにしました。また、巡回教育相談員の先生とも連携し、相談員の先生に話ができる日も3日設けました。

3、学校行事について

- (1) 家庭訪問・・・2学期制によって生み出された時間を活用し、家庭訪問の時間の余裕を確保しました。それは、児童の心の深いところまで理解して指導にあたりたいという思いの表れです。地域訪問なども検討しましたが、教育の第一歩は児童理解との考えから、家庭訪問にじっくりと取り組んでいます。
- (2) 運動会・・・運動会の練習も効率的・計画的に行うよう工夫しました。また、全体練習などは、行事としてカウントし、年間の学習計画を見直しました。
- (3) 学習発表会・・・今までの「展覧会」「学芸会」の発想を転換し、じっくり・しっかり・たっぷり・いきいき取り組んできた学習発表の場として「学習発表会」を設けました。発表の方法として展示的な内容と、発表的な内容に分けて行うことになりました。特に来年度の発表的な内容の学習発表会では、今までの学芸会とはひと味もふた味もちがったものにしたいと考えています。

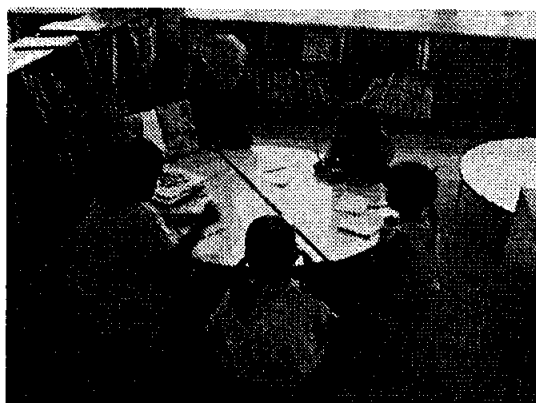
4、2学期制の成果と課題

(1) 成果

- ① 始業式・終業式などが減り、授業時間が10時間以上確保されました。それに伴って、今まで通りに家庭訪問が実施できました。また、前述のように、2学期制によって生み出された時間の余裕を使って、たっぷりと体験学習に取り組むことができました。そして、そのような取り組みの多くには、保護者も積極的にかかる機会を設け、児童を多くの目で見守ることができました。
- ② 体験的な学習がより充実して確保できました。また、じっくりと学習に取り組む時間が保証され、落ち着いて児童と向き合う時間が生まれました。

(2) 課題

- ① 10月に行った外部評価（保護者）の中には、2学期制のメリットが良く分からないという意見が添えられていました。長い間身に付き、生活に慣れ親しんできた3学期制との違いが明確にできず、何が変わったのか・何が変わらなかったのかが理解されにくかったようです。学校として、さらにわかりやすく、視覚に訴えるような説明を心がけ、今までのやり方との違いを鮮明に打ち出した広報活動をしていく必要があると考えています。
- ② この1年間を振り返り、われわれ職員が2学期制についての課題やよさについて検証していくことが必要です。来年度には、①児童の学び方や職員のかかわり方を一層工夫し、3学期制との違いを明確にする ②授業時間を確保したことで3学期制と同じようにできていることを明確にする という2点を、家庭や地域とともに考えていきます。そして、確かによくなったということを目に見える形として示していくとともに、目には見えない部分での学力の確実な伸びや心の豊かな成長が実感できるように、学校が一丸となっていくことが大切だと考えます。



羽村市立武蔵野小学校

今日が楽しく、明日が待たれる武蔵野小学校

1. 教育課程編成の在り方

こんな学校を創ります

- ・地域の中で愛され認められる学校として、基礎基本の学習をしっかりと行い、分かる喜び・できる喜びを感じられる子を育てる。
- ・地域の教育力を生かしながら、地域の人とのふれあい、むさしの学級とのふれあい、ふれあい班での異年齢との活動を通し、学び合う中で子どもたち一人ひとりのよさが認められる豊かな人間関係を築き、思いやりのある子を育てる。
- ・自己実現に向け、自分自身を高め続け、培った力を地域や社会に役立てていける意欲的な子どもを育てる学校を創る。

本校は、日本の自然環境にあった今までの3学期制の良いところを引き継ぎながら、伝統的な行事を大切にし、より良い2学期制を目指して教育改革に取り組んだ。

(1) 授業時数の確保 (例・高学年)

授業日数を確保するだけでなく、水曜日に5時間目を設定し、週あたりの授業時数27時間プラスモーニングタイムで28時間を確保し、クラブを金曜6校時、委員会を月曜6校時に設定した。

それだけでなく、1時間でも授業時数を多く取れるように、曜日による授業数の違いを考慮して行事等を組んだ。5年生の清里移動教室を夏休みに行った。

月曜日の6時間は、委員会のある日を除いて、数多くの行事の準備や児童と先生が独自の時間設定し、有効に活用できるようにした。

(2) 一人ひとりに目を向ける 少人数算数導入(習熟度)・日本語教室

夏休み前に家庭訪問・個別懇談を設けるだけでなく、冬休み前にも個別懇談を設定して、一人ひとりのきめ細かな様子や成長したところを話せるようにした。2回の個別懇談を組めたのは、小さな工夫による授業時数確保の結果である。

(3) 評価が変わる夏休み学習

夏休み前の個別懇談で、今までの成果が伝えられ、十分成果が得られていない児童には、学習教室が開かれた。この学習会には、既に成果を得られている児童も数多く参加した。更に、家だけでも学習して評価テストを受けられるよう多くのプリントを作り配った。学習教室の終わり・夏休みの終盤の1日(午前と午後)、そして、9月に、成果テストを行い、夏休みの学習の意義や成果を確かめることができた。

特色ある教育

一人ひとりを こんな活動

じっくり

学習には基礎基本があります。基礎基本は、授業時数を確保し、じっくりと時間をかけて教えます。

放課後の活動や学習にも取り組んでいます。

本校には、むさしの学級、通常学級、日本語教室があります。いろいろな形で交流学習をしています。日本語教室では、日本語指導が必要な児童を対象に速やかな日本語習得と教科学習の深化を図っています。

学校生活全体を通して、一人ひとりを大切に、個に応じた細かな気配り・指導を心掛けているのです。

モーニングタイム・読書旬間

学習の基礎基本

をしっかりと身につけるため、くり返し計算や漢字練習など計画的な学習が行われた。年二回の読書旬間には、教師の読み聴かせなどを入れ、ゆっくり落ち着いて本を読む期間も設けた。

武蔵野フェスティバル

各クラスが趣向を凝らし、みんなが楽しめる活動を考えて、学校全体で交流した。みんなの工夫で、今年も新しい活動が見られた。保護者の参加もあり学校が一つになる。自分たちで活動や必要なものを考え、企画することは、見通しを持った学習につながる。

学習

きち

子どもが納得、理と指導します。

きちんと身に付け授業や家庭学習はもグタイムを活用して、算力や漢字の習得、ます。

学習面だけでなく、にも目を向け、家庭生活面もきちんと指

夏季講座・夏休み図書室開放

教科の 地域との
勉強だけでなく、 地域の
楽しい学習や体験を 作りや昔遊
考えた学習・親子プール 踊りの講習
を開いた。 参加したり
夏休みも図書室を開放 動物園との
する日を設け、本の貸 ガイドや
し出しもした。 キャリア
を行っ

外部・学校評価 個別懇談（個々）

2月26（土）

P T A 主催の拡大版
ウィンターフェスティバル

大切に

をしました

行事

活動

んと
解するまできちん
るために、日々の
ちろん、モーニン
くり返し学習し計
思考力を付けてい
挨拶などの生活面
や地域と協力して
導します。

たっぷり

学習の基礎基本をしっかりと教えるため、3年生以上の学年は水曜日の5時間目に1時間増やし週の授業時数を確保します。

たっぷりと体験活動や経験ができるよう教材教具を考えたり、十分な道具を準備したりして身に付けたものを社会や日常生活で生かせるようくり返し指導します。

自己実現のために何をしたらよいか、総合的な学習の時間などを通して、様々な疑問に取り組み、自主的な学習がきちんとできるようにしていきます。

そのために、的確な支援や援助をしたり、教師は温かく見守ったりしながら子どもの生きる力を育てます。

ふれあい班活動

むさしの学級

を含む全学年での異年齢グループ活動を通して、思いやりの心を育てた。外国の方を講師に招いて交流したり、学校清掃活動もしたりした。高学年が低学年の面倒を見たり、低学年が自分の役割分担を果たそうと頑張った。

コンピュータ・英語活動

最新の

コンピュータや視聴覚機器を使った学習、外国人講師によるALT、英語学習を続けた。

特色ある教育として

1・2年生も外国人講師による英語活動

をした。環境の充実を一層図るため、本年度は、

各学年・むさしの学級ごとにウメ、アンズ、ミカン、リンゴ、キウイ、ブルーベリー、プルーンを植えた。

各学級、全員でパンジーの種をまき、育った苗を6年生指導の基、鉢に植え替え見事に花を咲かせた。

ウィンターフェスティバルでは、教室に飾りお客様に見てもらった。

交流活動

人に野菜を習ったり、を受けて祭りにした。協力で、動物飼育体験、教育した。



3. 学校行事について

武蔵野小学校の春・夏・秋・冬

前期 (4月6日～7月22日・8月30日～10月8日) 後期 (10月12日～12月24日・1月11日～3月25日)

<p>4月 入学式、始業式、保護者会、 遠足 (4～5月)、地域巡り</p> <p>5月 授業参観、PTA総会、運動会</p> <p>6月 読書旬間 移動教室説明会 (5・6年)</p> <p>7月 6年日光移動教室 家庭訪問・個人面談 (7月中) 水泳指導</p> <p>夏休み — 評価が変わる学習 夏季学習教室 夏季水泳指導 5年生清里移動教室 夏季講座 図書室開放日</p> <p>9月 道徳授業地区公開講座 保護者会</p> <p>10月 演劇鑑教室 前期終業式</p>	<p>10月 後期始業式 読書旬間</p> <p>11月 作品展 (東京都教育の日) 西多摩合同音楽会 (6年) 地域で野菜収穫 西多摩図工展 動物園ガイド・飼育体験</p> <p>12月 武蔵野フェスティバル 個人面談</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家の手伝い 冬休み 伝統行事を大切に</p> <p>1月 学校公開 (1日授業参観) 書写展 外国の生活縦割り班 保護者会 (臨時)</p> <p>2月 書写展 6年生を送る会 (ウィンターフェスティバル) 保護者会 (2～3月) 動物園飼育体験 (キャリア教育)</p> <p>3月 卒業祝う会縦割り班 修了式 卒業式 他に社会科見学や学年の活動が入ります。</p>
--	---

4. 2学期制評価・成果と課題

【成果】

- ・教師の仕事は大変になったが、一人ひとりに目を向けた教育活動が展開できた。
- ・授業時数の確保、数多くの行事を入れながら、3月終わり見込み授業時数は、約3.0時間の余剰時間を持てた。来年度は、これを上回る予定である。
- ・7月、12月に行事を組むことが可能になったことで、行事の弾力的な配置が可能になった。
- ・評価を変える充実した夏休みの学習を行うことができた。

【課題】

- ・全体の保護者会数が減ったことで全体指導や一斉の話し合いができなくなり、すぐに対応して臨時に保護者会を行った。外部評価も受け、来年度、保護者会を1回増やすことに決めた。
- ・外部評価の内容を受け、より充実した運動会を考える。
- ・総授業時数を十分確保したが、授業内容や質を高めるべく新年度の教育課程を編成する。

羽村市立羽村第一中学校

1 教育課程編成の在り方

本校は、今年度から2学期制を導入した。以前より新学習指導要領実施に向けて、3学期制の中で授業時数の確保等の努力を進めていた。結果的に、このことが2学期制への移行をスムーズに進める役目を果たすこととなり、平成16年度の2学期制をもとにした教育課程を作成していく中で、昨年度と大きな変化をすることなく移行ができた。

しかし、2学期制を実施していく中で、多くの課題にぶつかったことも確かである。その結果を見つめて、よりよい2学期制に向けて改善していく努力が必要である。

本年度の教育課程の編成について2学期制にかかわる編成上の具体的な配慮点を以下に示した。

(1) 授業時数確保のために

- ① 従来、学期の始めと終わりの日にはそれぞれ始業式・終業式があり、儀式にかかわる行事の授業時数が必要であった。2学期制により、学期の数が減ったため、1つの学期分の儀式的行事の授業にかえて、教科等の授業を実施することができた。
- ② ①と同様に、長期休業中の前後にかかわる通知票記入などの成績事務作業が1・2学年においては軽減された。

(2) 授業日の弾力的な実施

夏季休業日・冬季休業日前の飛び石的な休日をまとめて、授業を効率よく実施できるようにした。その分の該当授業日は夏季休業日を早めに終了することで確保した。

【夏季休業日の前の例】

7月 16(金)	17(土)	18(日)	19(月)	20(火)	21(水)	
通常	週休	週休	祝休	学終	夏休	本来の形
学終	週休	週休	祝休	<u>夏休</u>	夏休	一中の弾力的運営

【冬季休業の前の例】

12月 22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	
通常	祝休	学終	週休	本来の形
学終	祝休	<u>冬休</u>	週休	一中の弾力的運営



8月29日・30日に授業を行った。

「夏休」は夏季休業日

「冬休」は冬季休業日

2 学習指導について

学習においては、生徒自身が意欲的に、また十分な時間の中で行うことが望まれる。また、教員も確かな評価を示して、生徒に力を付けていかななくてはならない。そのために2学期制が有効に作用しなければならない。

(1) 長いスパンで生徒をじっくり評価（1・2学年）

学習の評価を行う期間が3学期制の時期に比べて長くなり、じっくりと生徒を見ながら行うことが出来た。

特に、新学習指導要領においては、教科時数が全般的に少なくなり、週1時間の教科も増えてきた。その授業時間数の少ない教科では、少ない資料で評価・評定を付けなくてはならない。さらに、実技教科においては、少ない作品数で評価しなくてはならなかった。

ここで期間が長くなることによって複数の作品等による評価が可能になった。

(2) 目標を明らかにした学習

① 夏季休業中に目標をもった学習

2回目の定期試験を夏季休業日あけの1週間後に設定した。試験範囲は、夏季休業日前に知らせておいた。長期休業中に計画的に試験勉強をさせて、休業日を有効に活用できるようにした。

② 夏季休業前に3年生に「仮評定」を提示

3年生の学習では、受験に向けて長期休業日をいかに活用するかは重要である。

そこで、学期の途中である夏季休業日には、3年生が受験という観点から、具体的な努力目標を示すことが必要であると考え、5段階評価で「仮の評定」を示し、夏季休業中の学習意欲を高める工夫をした。

3 学校行事について

◎は成果 ●は課題

学校行事は学校の活性化のために現状を維持する方向で考えてきた。今年度も先年度と同様に学校行事を行ったが、授業時数確保の観点からは限界があった。今後精選に向けて見直しが必要である。

(1) 儀式的行事

◎始業式、終業式が1つずつ減って授業時数の確保につながった。

◎夏季休業日前、冬季休業日前日に全校集会を行い、充実した長期休業日になるよう指導を行った。

●前期、後期の境目のメリハリが薄く、儀式の存在自体が問われた。

(2) 体育的行事

●2学期制の主旨を考慮し、実施日等の配慮が必要である。

(3) 学芸的行事

●合唱コンクールを10月の下旬に行ったが、学期の切れ目後の直後より準備に入り慌ただしかった。2学期制での行事の配置を十分考える必要を感じた。

(4) 委員会、生徒会活動

◎本校では委員会、生徒会活動を前期後期制で行っていたため、しっかりとすることができた。生徒会の役員改選や各種委員会関係の係決めもスムーズであった。ただ、後期の委員会決めと合唱コンクールとの準備段階が重複したことについては改善の必要がある。

4 2学期制のよさを生かすための課題

(1) 2学期制を行うにあたって、授業時数確保が容易になるとされていた。しかし、一中としては授業時数確保の努力が前年度よりなされていたため、あまり大きな差とはならなかった。

(2) 夏季休業日前には今までの1学期終業式にかえて全校集会という形で行ったが、慣れないせいかしっくりとしなかった。今後は長期休業日に入るための心の準備を作っていくような内容や指導を検討する。

(3) 高校の入試は3学期制をもとに行われている。現在は、通常の2学期の内申を使っでの最終進路指導や通常の1学期の成績で志望を絞っていく指導方法は今でも一般的に行われている。このことへの対応が大きな課題である。

(4) 定期試験Ⅱを夏季休業日あけの1週間後に実施したが、学習に対する意識が高い生徒は十分な準備が出来た。しかし、学習習慣の身に付いていない生徒にとっては、十分な準備が出来ないまま試験に入ってしまうこととなった。今後は、試験実施の時期等を再度検討したい。

(5) 行事の精選を進めて、一中にとっての特色を生かしながら、ある意味では行事の縮小も視野に入れながら行う必要を感じている。

5 その他

2学期制元年の本年度は、それを実施しながら多くの課題にぶつかった。事前の対応が遅れたり、思わぬ課題が出てきたりすることもあった。しかし、そのたびに改善策を検討・実施し、来年度の教育課程の編成につなげることができた。

まだまだ、課題はあるものの、議論を重ねてよりよい2学期制の実施に向けて努力していきたい。

また、全国的に2学期制を取り入れていく学校が多くなりつつあると聞く。また、東京都でも例外ではなく、いくつかの区市では全体で取り組むという話もある。

今回実施していく中で、特に進学指導時における成績にかかわる課題については市全体で対応策を検討していく必要を感じた。

羽村市立羽村第二中学校

1. 教育課程編成の在り方

(1) 2学期制実施に至る経緯

現在の学習指導要領が施行される平成14年度を迎えるに当たって、生徒の学力低下、指導内容と指導時間の削減、授業時数980時間の完全実施、絶対評価などの諸課題があった。これらに対応するための方策として、行事の精選、週時程の変更、日課表の変更、総合としての読書活動開始、校務分掌や職員の委員会改編、絶対評価に伴う個人学習記録表づくりなどとともに2学期制を取り入れた。

新学習指導要領の下では、以下のような点で、3学期制より2学期制の方が適していると考え平成14年度から実施に踏み切った。第一に、3学期制より効果的取り組みを通して授業時数を確保できる。そして、生徒に「ゆっくり、しっかりした学び」を提供できる。第二に、夏休みや冬休みの努力が、その後の定期考査に直接反映することで、学習意欲の向上につながる。第三に、大幅に授業時数を削減された実技教科では、評価を出すまでの授業時数を増やすことができる。

(2) 教育課程編成

項 目	基 本 方 針 と 主 な 内 容
各 教 科 総 合	◎基礎的、基本的な内容の指導を充実させ、常に授業改善を図る。 一人一人の良さを生かす評価により、自己の特性を知るとともに課題意識を持ち、自ら考え学習する生徒を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語科の習熟度別少人数指導やALTの活用 ・総合における朝読書、地域学習、国際理解 ・個人学習記録表による単元別観点別評価 ・体育科のティームティーチング ・長期休業中の補習授業と質問教室
心 の 教 育 (道徳、特活)	◎豊かな心の触れ合いを啓発し、思いやりのある心を育て、人間尊重の精神を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動全般 ・道徳地区公開講座 ・学級活動や学校行事 ・生徒会活動
生 活 指 導	◎教職員と生徒の心の触れ合いを大切にし、家庭や地域との連携を深める中で、社会の一員としての規範意識を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・三者面談や二者面談 ・薬物乱用防止教育 ・喫煙防止教育 ・教育相談や不登校生徒対応

項 目	基 本 方 針 と 主 な 内 容
進 路 指 導	◎3年間を通して系統的組織的な進路指導に努め、望ましい勤労観や職業観を育成する中で、個性を生かし主体的な進路選択ができるように援助する。 ・職業調べ ・職業体験 ・高校授業体験 ・面談
特色ある教育	◎外部の人材を積極的に活用し、地域理解と国際理解を深める。地域や家庭との連携を密にし、開かれた学校づくりを進める。 ・二大行事 ・社会科における留学生の活用 ・町内会活動や夏祭り参加 ・羽村市研究奨励指定校 ・家庭科や音楽科におけるゲストティーチャー

2. 学習指導について

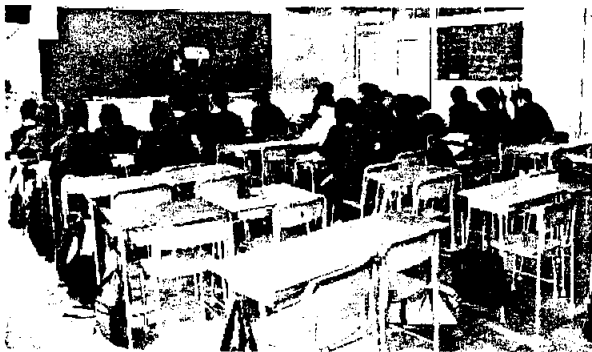
基礎・基本を大切にした教育活動を推進する中で、生徒一人一人に学習の楽しさを実感させ、進んで学ぶ意欲を喚起しわかる喜びを味わえる指導法の改善や指導内容の充実を図っている。

(1)年間指導計画と個人学習記録表

年度当初に、全教科が指導と評価の在り方を記載した年間指導計画を作成し、学年毎に冊子を保護者に配布することによって、わかりやすい指導と評価を目指している。また、年間3回、各教科毎に生徒一人に1枚ずつ、単元別観点別評価やコメントを記載した個人学習記録表を作成し、生徒一人一人に到達度をはっきりと示し、自分の状況を把握させ、今後の学習方針を明確にさせている。

(2)英語科の習熟度別少人数指導とALTの活用

全学年において2クラス3分割の習熟度別少人数指導を展開し、個に応じた指導と実践的コミュニケーション能力の向上を図っている。少人数にすることによって、目が行き届きやすくなるだけでなく、発表回数が増えたり全員と英会話を行えたりするので、生徒の英語に対する意欲が高まっている。



(3)体育科のチームティーチング

全クラスで週に1回ずつ、複数の教師による指導を行っている。マット運動や水泳指導等でその効果を発揮している。また、体育大会の全校演技（マスゲーム）の指導にも大変有効である。

(4) 実技教科

現在の指導要領では、3年生の技術家庭の授業が隔週1回ずつしか行うことができず、その中で観点別評価を行うことは大変難しい。2学期制にすることで、およそ2ヶ月評価時期を遅らせることができ、充分とは言えないが3学期制より授業回数を確保することができる。他の実技教科でも同様の効果がある。

(5) ゲストティーチャーの活用

社会科の留学生を招いての授業では、外国の若者から生にいろいろな話を聞くことができ、またとない国際理解の機会となっている。

家庭科では、主に調理実習で地域の方に協力していただき、安全でスムーズな授業を展開することができる。

音楽の授業では、合唱、ギター、箏の指導をスペシャリストから受けることができ、生徒たちの興味関心や学ぶ意欲が高まっている。

その他、総合的な学習の時間にも専門家や保護者や障害を持つ方々にご協力いただいた。



⑥ 総合的な学習の時間

羽村市研究奨励校として、「発達段階に応じた系統的な『総合的な学習の時間』の編成と実践」に取り組んでいる。ここでも上述の通り、外部の多くの方々に協力をいただき、地域理解（地域に学び、地域に発信する）を柱として、地域を調べ、世界を学び、地域の行事に参加し、地域に発信する活動を行った。全ての学年が、2種類の活動を

概ね前期と後期に分けて取り組んだ。これらの実践を通じて、生徒の調べる力やプレゼン能力が向上している。3年生が後期に取り組んだ「トイレマップ」は社会貢献としても役立つものであった。

3. 学校行事について

(1) 二大行事（体育大会と音楽会）

前期に鍛え蓄えた力を後期の初めに行う「体育大会」で発揮し、1年間学び築いてきた力を学年の最後を飾る「音楽会」で披露する。今後改善の余地はあるが、これが2学期制の下での本校における行事関わる年間の大きな流れである。他の行事は、この二大行事との兼ね合いを考慮して、実施時期を決定している。

「体育大会」で中心となるのは、全校生徒による『マースゲーム』である。音楽に合わせて、一人演技から二人、三人と増え、男女別クラス演技で前半を終え、後半は1・2年生がつくる大



きな輪の中で、3年生が波や4段タワーをつくりクライマックスを迎える。このときだけは特別に校舎の屋上を開放し、大変多くの保護者や地域の方々に生徒の華麗な演技をご覧いただいている。来年度は更により良いものにするために、工夫・改善を予定している。

(2)平成16年度の主な行事

全 校	写生会（4月）、体育大会（10月）、音楽会（3月）
1 学年	清里学園（5月）、川越遠足（11月）、スキー教室（1月）
2 学年	職業体験（7月）、大使館訪問（10月）、スキー教室（3月）
3 学年	修学旅行（5月）

3年生の授業時数確保、進路指導の早期充実、3年時の部活動の充実というねらいで、来年度から修学旅行を2年生で実施する。その影響で、従来2年生で行っていたスキー教室を1年生にずらしたために、今年度は2つの学年でスキー教室を実施することになった。

4. 2学期制の評価（成果と課題と考察）

2学期制実施に至る経緯で説明した当初のねらいは、概ね達成されている。また、生徒から「前期の成績が出て、すぐに後期の授業が始まるから、しっかり勉強しなきゃという思いが持続できていい」という、私達が予想していなかった反応もあった。これも2学期制の成果の一つと考えられる。

今後の課題としては、更なる行事の精選と実施時期の変更（これまでは修学旅行専用列車の抽選結果に左右されていた）、長期休業中の学習に対する積極的な働きかけ、調査書の成績と2学期制評価の時期のずれ解消、学校から生徒や保護者への強い働きかけ、などが考えられる。

「効果的な取り組みを通して授業時数が確保できる」ことが、本校が他に先駆けて2学期制を取り入れた理由である。その結果、1・2年は標準を大幅に上回り、優に1000時間を超えている。しかしながら、45分授業を0.9時間とカウントすると、3年が標準授業時数980時間をクリアできず、夏休みを短縮することで授業時数確保を行った。現状では、2学期制でさえも3年の時数捻出に苦勞している。これでは何のための2学期制か？という声が出てもやむを得ない。本来は「学力をつけるためには、もっと授業が必要である。だから長期休業を短縮する。」という流れになるべきである。これらの内容は今後の検討課題として研究を深め、その上で真に各校が英知を結集して2学期制の良さを追求し、推進できるような条件整備がなされることを期待している

羽村市立羽村第三中学校

平成12年度に「本校の教育」について保護者・生徒・教職員対象にアンケートを実施し意見を集約したところ、保護者は「生活指導面で基本的なことをしっかり指導して欲しい」、「基礎学力をつけて欲しい」という学校に対する厳しい意見が多数あった。教職員の意見もこれらに集約されており、学校改革に向けての機運の高まりとなった。課題解決のための方策として、校内研究の充実を図ることとし、平成13年度より2年間、羽村市教育研究指定校を受け研究が進められた。

「生活指導上の安定の鍵は、すべての生徒にわかる授業の実現にある」という考えに立ち、「一人一人にわかるまで学習をさせる」きめ細かな指導を実現する必要がある。そのことから研究主題を『基礎・基本を充実し、生徒に意欲と希望を持たせる指導と評価』研究副題「ガイダンス機能をいかした学習指導を通して」とし、研究推進委員会を組織し、校内研究会を充実させ、平成14年度学習指導要領の完全実施に向けて精力的に研究・実践を重ねた。

研究を進める中で、教育改革の提言を活用し新しい発想を出し合う中で2学期制が検討された。羽村市教育委員会において条例の改正が図られ2学期制の導入が可能となった。評価の面でも、相対評価が絶対評価に変わり、「評価規準」を作成し、観点別に評価するようになった。そのため学習の定着度を伝える工夫も行った。

2. 2学期制の提案理由

(1) 2学期制のメリット

- ①指導と評価が長いスパンで「ゆとり」をもって行なわれるため、生徒に基礎基本がより定着し、学習意欲が高まり、学習面だけではなく生活指導面での効果が大い。また、評価に対する説明責任も充分果たせる。
- ②ガイダンス機能（面談や評価補助簿の活用等）を生かした教育活動が無理なく実施でき、生徒の自己理解や保護者との相互理解が深まり生徒の望ましい自己実現を図ることができる。
- ③夏休みが学期の中に入ることによって課題を意識した学習がなされ、充実した夏休みになる。
- ④定期テストや始業式等の儀式が減ることによって、テストの時間及び作成の時間や成績事務処理の時間、儀式に要する時間が減るため、授業時数の確保が容易となる。
- ⑤羽村第三中学校のイメージを一新することができる。

(2) 2学期制のデメリット

- ①7月、12月に通知表がでないことに対する保護者の不安に対する対応が必要。
- ②特に3年生の進路指導に関して生徒・保護者の不安に対する対応が必要。
- ③ガイダンスを充実させるための評価補助簿を作成する時間が必要になる。

3. 2学期制による目指す学校像

2学期制の中で『ゆっくりじっくり学ぶことのできる学校』をつくります。

- ①生徒の変容を長いスパンでしっかりと見ていきます。
- ②ゆとりをもって基礎・基本の徹底を図ります。
- ③生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を目指します。
- ④教育面談や評価補助簿などを活用し、生徒一人一人に学習の到達状況を示し、生徒自らの学習に対して目的意識を持ち、学習に主体的・意欲的に取り組める生徒を育てます。
- ⑤指導と評価の一体化を深め、基礎的・基本的な学習内容の習得を図ります。

4. 2学期制導入により得られた成果

- (1)授業時数の増加 40時間
 - ①定期考査が1回削減 (15時間)
 - ②休業前の短縮時間なし (10時間)
 - ③始業式・終業式の削減 (15時間)
- (2)総授業時数(980時間)以上を確保できた。

平成14年度	(1年1007	2年1011	3年 981)
平成15年度	(1年1025	2年1010	3年 983)
平成16年度	(1年1004	2年 991	3年 983)
- (3)長いスパンの中で授業を展開でき適正な学習の評価・評定ができた。
- (4)長期休業日は学期の途中であり、その活用を図ることができた。

学習教室(補充・発展)を開催。前期の生徒の評価・評定にも生かされ、生徒の学習意欲を高めることができた。
- (5)7・12月に通知表がでない不安への対応年3回(4月、7月、12月)の教育面談(ガイダンス)を実施し、自己評価表と9教科担当からの評価補助簿を活用した。保護者には生徒の学習の様子が良くわかれると好評である。

5. 2学期制での今後の課題

- (1)前期と後期の間には一定の休業日(秋休み)を設定することが望ましい。この場合、始業日、終業日や休業日など地域の小・中学校との連携が必要となる。
- (2)部活動の大会の調整が必要。中学校の部活動の大会は広域に実施されるために、長期休業日はずれると大会運営や参加に支障をきたすことも考えられ、調整が必要となる。

6. まとめ

本校の教師は、2学期制導入による新たな課題にたいして柔軟果敢に前向きに取り組んできており、前例主義に捉われず新たなことに挑戦しようとする教師集団の姿がある。このように研究や実践を通して教師の資質の向上が図られてきたことが最大の成果であると考えます。「教師が変われば子供が変わる」現在、生徒たちは落ちついた学校生活、意欲的な学習態度、活発な部活動や特別活動など大きく変容してきました。創立20周年を機に、さらに「地域に根ざした地域に信頼される開かれた学校」として学校経営を進めてまいります。

3年英語評価補助簿（例）

生徒自己評価表（例）

平成16年度

英語科 第3学年 評価補助簿

羽村市立羽村第三中学校

3年組番 氏名

	評 価 の 観 点			
	コミュニケーションへの意欲・関心・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Unit 1				
Unit 2				
前期中間				
Unit 3				
Unit 4				
Unit 5				
Unit 6				

前期学習自己評価表

*評価項目を見て、自分の学習について評価してみましょう。面談が終わったら、面談での先生の話を参考にして、学習目標を立てましょう。

1年 組 番 氏名

教科	評価項目 *自己評価(A, B, C)				今後の学習目標
	A…よくできる B…できる C…もう少し				
国語	評価項目 発言するなど積極的に授業に参加していたか	先生や友だちの話をよく聞き、ノートをしっかり取っていたか	漢字が書けるように努力したか	テストに向けよく勉強したか	
	評価 よい点				
社会	評価項目 社会科が好きで、興味関心を持って学習に取り組んだ	原因や社会的背景を考えたり、他の地域と比較したりするなど様々な角度から考え、学習に取り組むように心がけた	資料集や地図帳などを有効に利用し学習に取り組んだ	学習の内容をよく理解できた	
	評価 よい点				
数学	評価項目 授業に積極的に参加し、努力しようとしたか	問題を考え、工夫して解こうとしたか	計算を間違えずにできるようになったか	必要な言葉や公式、記号を理解できたか	
	評価 よい点				
理科	評価項目 積極的に取り組んだか	自分の考えを持つことができたか	レポート、プリント、ノートなどをきちんとまとめることができたか	学習したことがきちんとわかったか	
	評価 よい点				
音楽	評価項目 授業態度、チャイム着席、忘れ物、積極的な態度	提出物、階名の記入など	合唱(発声・音程・美しい響き)練習時の態度	鑑賞(聴く態度・内容の理解)	
	評価 よい点				
美術	評価項目 ・よりよい作品を目指して、自ら意欲的に制作に取り組んだ ・制作カードに工夫や努力点をしっかり記入できた	図案の形や模様などを工夫することができた	・グラデーションを理解できた ・きれいに模様が描けた ・色の変化、平塗りがきれいになった	自分や友だちの作品のよさなどを感じとり、作品の工夫点や感想がたくさん書けた	
	評価 よい点				
保健	評価項目 意欲的に授業に参加できたか	自分の能力に応じ、工夫して練習することができたか	技能の習得を目指すことができたか	練習や競技の仕方、ルールを理解して安全に活動することができたか	
	評価 よい点				
技術・家庭	評価項目 意欲的な態度で授業を受けられたか	作品や他の提出物に工夫を加えられたか	学んだ技術を身につけることができたか	学習内容をよく理解できた	
	評価 よい点				
英語	評価項目 授業に意欲的に参加し、提出物などをきちんと提出したか	読む練習に意欲的に取り組むことができたか。英語で話したり、書いたりしようとしたか	英語を聞いたり、読んだりした時、その内容を理解しようと努力したか	英語の勉強を通して日本や外国の文化などに興味を持つことができたか	
	評価 よい点				
くすの木タイム	評価項目 読書は好きですか	くすの木タイムが始まってから以前と比べ、本に接する機会が増えましたか	読書をする中で何か変化したと思うことはありますか。それは何ですか。		
	好きなふつう 好きではない	増えた 変わらない			

家庭からの通信欄